

(第1面)

産業廃棄物処理計画書

平成 29 年 6 月 22 日

大分県知事 殿



提出者

住 所 大分県中津市大字昭和新田1番地

氏 名 ダイハツ九州株式会社

代表取締役社長 泉谷 卓司

(法人にあつては、名称及び代表者の氏名)

電話番号 0979-33-1240

廃棄物の処理及び清掃に関する法律第12条第9項の規定に基づき、産業廃棄物の減量その他その処理に関する計画を作成したので、提出します。

事業場の名称	ダイハツ九州大分(中津)工場
事業場の所在地	大分県中津市大字昭和新田1番地
計画期間	平成 29年 4月 1日 ~ 平成 30年 3月 31日 迄
当該事業場において現に行っている事業に関する事項	
①事業の種類	E-31 輸送用機械器具製造業
②事業の規模	6,000 百万円
③従業員数	3,373 人
④産業廃棄物の一連の処理の工程	別紙、1 参照

産業廃棄物の処理に係る管理体制に関する事項

(管理体制図)

別紙、2 参照

産業廃棄物の排出の抑制に関する事項

①現状	【前年度（                      年度）実績】		
	産業廃棄物の種類		
②計画	別紙、3 参照		t
			t

産業廃棄物の分別に関する事項

①現状	(分別している産業廃棄物の種類及び分別に関する取組) 種類：別紙、1参照 取組：別紙、3 これまでに実施した取組 参照
②計画	(今後分別する予定の産業廃棄物の種類及び分別に関する取組) 種類：廃油 取組：油水分離による一部有償化

自ら行う産業廃棄物の再生利用に関する事項

①現状	【前年度（ — 年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	—	—
	自ら再生利用を行った産業廃棄物の量	— t	— t
	(これまでに実施した取組) _____		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	—	—
	自ら再生利用を行う産業廃棄物の量	— t	— t
	(今後実施する予定の取組) _____		

自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項

①現状	【前年度（ — 年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	—	—
	自ら熱回収を行った産業廃棄物の量	— t	— t
	自ら中間処理により減量した産業廃棄物の量	— t	— t
(これまでに実施した取組) _____			
②計画	【目標】 —		
	産業廃棄物の種類	—	—
	自ら熱回収を行う産業廃棄物の量	— t	— t
	自ら中間処理により減量する産業廃棄物の量	— t	— t
(今後実施する予定の取組) _____			

自ら行う産業廃棄物の埋立処分又は海洋投入処分に関する事項

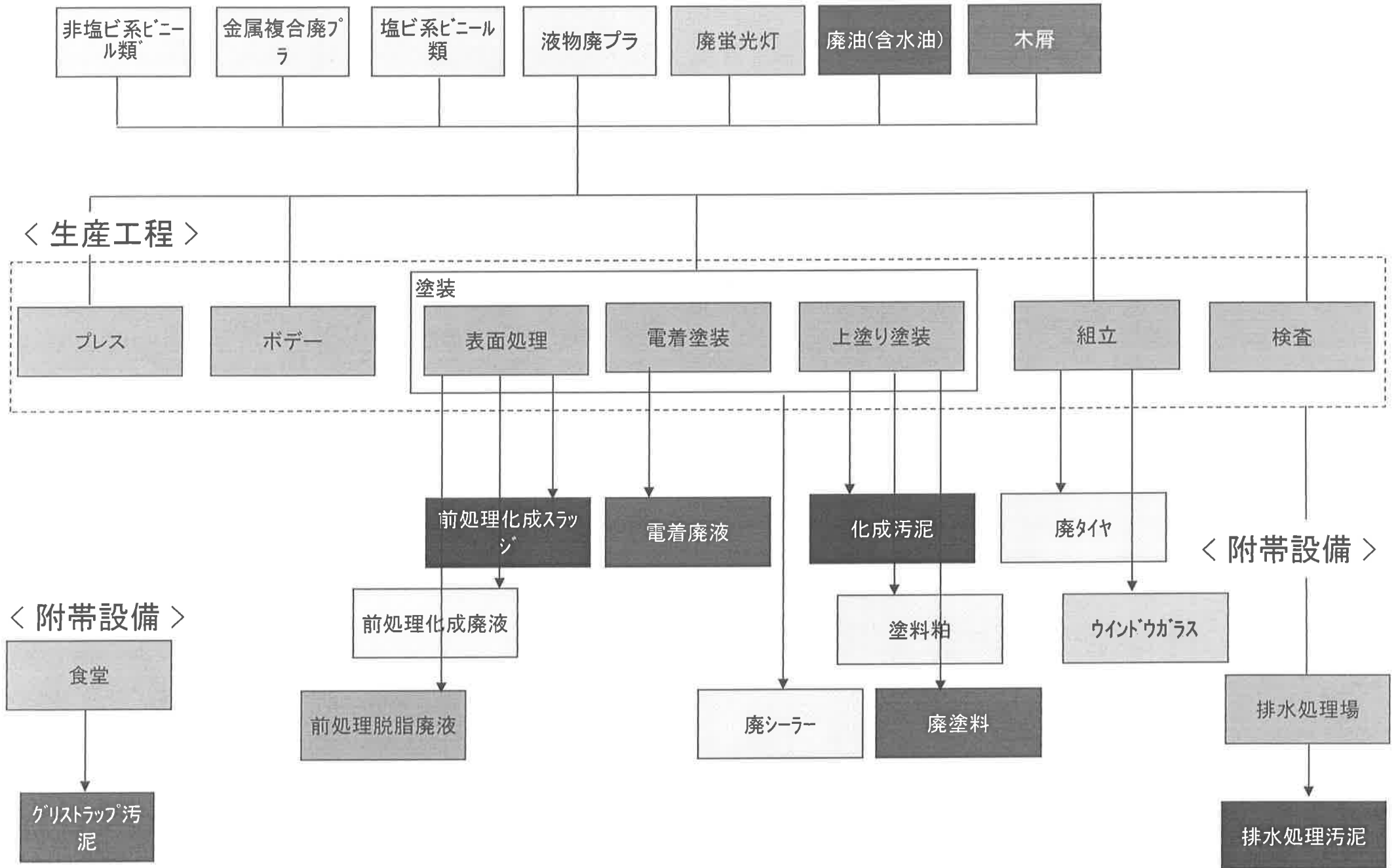
①現状	【前年度（            年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	—	—
	自ら埋立処分又は海洋投入処分を行った産業廃棄物の量	— t	— t
	(これまでに実施した取組) _____		
②計画	【目標】 —		
	産業廃棄物の種類	—	—
	自ら埋立処分又は海洋投入処分を行う産業廃棄物の量	— t	— t
	(今後実施する予定の取組) _____		

産業廃棄物の処理の委託に関する事項

①現状	【前年度（            年度）実績】			
	<div style="border: 1px solid black; background-color: #cccccc; padding: 20px; width: 100%; height: 100%;"> <p style="font-size: 2em; margin: 0;">別紙、4 参照</p> </div>			
				t
				t
				t
				t
t				

②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類		
	<div style="background-color: #cccccc; padding: 20px; border: 1px solid black;"> <p style="font-size: 2em; margin: 0;">別紙、4 参照</p> </div>		t
			t
			t
			t
t			
※事務処理欄			

(別紙、1)





(別紙、3)

産業廃棄物の排出の抑制に関する事項								
①現状	【前年度（2016年度）実績】							
	産業廃棄物の種類	汚泥	廃プラ	ガラス屑	廃油	廃酸	廃アルカリ	木くず
	排出量	2,223t	960t	7t	531t	256t	287t	14t
(これまでに実施した取組)								
汚泥		・ 前処理化成スラッジの減水化（乾燥化）						
廃プラ		・ 金属複合廃プラの分別徹底による発生量削減						
廃油		・ 塗装ロボット塗着効率改善による廃塗料発生抑制						
②計画	【目標】 廃棄物発生量 台当り原単位 0.33%削減							
	産業廃棄物の種類	汚泥	廃プラ	ガラス屑	廃油	廃酸	廃アルカリ	木くず
	排出量	2,379t	1,028t	8t	568t	274t	307t	14t
前提条件 2016年度生産台数 35.3万台 2017年度（生産予測値） 37.9万台 削減目標 台当り0.33%削減								
(今後実施する予定の取組)								
廃プラ		・ 金属複合廃プラの分別徹底による発生量削減 ・ 部品組付不良による廃却ロス低減による廃プラ発生削減						



産業廃棄物の処理の委託に関する事項								
①現状	【前年度（2016年度）実績】							
	産業廃棄物の種類	汚泥	廃プラ	ガラス屑	廃油	廃酸	廃アルカリ	木くず
	全処理委託量	2,223t	960t	7t	531t	256t	287t	14t
	優良認定処理業者への処理委託量	t	82t	7t	7t	t	t	t
	再生利用業者への処理委託量	2,158t	464t	t	524t	256t	287t	14t
	認定熱回収業者への処理委託量	t	3t	t	t	t	t	t
認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量	65t	412t	t	t	t	t	t	
(これまでに実施した取組)								
<ul style="list-style-type: none"> <li>・マテリアルリサイクル処理業者、サーマルリサイクル処理業者への委託</li> <li>・委託業者現地確認実施</li> <li>・電子マニフェスト導入による処理状況相互確認の徹底</li> </ul>								
②計画	【目標】							
	産業廃棄物の種類	汚泥	廃プラ	ガラス屑	廃油	廃酸	廃アルカリ	木くず
	全処理委託量	2,379t	1,028t	8t	568t	274t	307t	14t
	優良認定処理業者への処理委託量	t	87t	8t	7t	t	t	t
	再生利用業者への処理委託量	2,309t	496t	t	561t	274t	307t	14t
	認定熱回収業者への処理委託量	t	3t	t	t	t	t	t
認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量	70t	441t	t	t	t	t	t	
(今後実施する予定の取組)								
<ul style="list-style-type: none"> <li>・マテリアルリサイクル処理業者、サーマルリサイクル処理業者への委託継続</li> <li>・委託業者現地確認の継続実施</li> </ul>								